

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮国際中等教育学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 単元ごとの学び意義が、生徒の学びに与える影響を質的に分析することが求められている。 <指導上の課題> 生徒の目的意識を高める課題設定と、指導改善に向けた情報活用の体制整備が課題である。	⇒ 生徒目線を取り入れた授業改善に向け、各教科会で重点項目を検討・決定する【6月】。自己評価や振り返りを通じて研究・実践を推進し【7月～9月・随時実施】、その成果は教科主任会【通年・隔週実施】や全体研修【10月】で共有・協議し、継続的な改善に生かす。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 生徒の視点を授業に反映するための意見収集と対話の場の体系化が課題である。 <指導上の課題> 教職員間の共通認識形成に向けた対話と時間の確保が課題である。	⇒ 校内研究と連携し、学び側の視点に立った授業観察の実施および生徒も交えた校内研修を行う【7月～9月・随時実施】。学期ごとに生徒へのアンケート調査の実施及びフォーカスグループに対するインタビューの実施とその分析を行い、指導改善に活用する【10月・3月／年2回】。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	単純な記述形式による知識確認では高い正答率を示し、基本的な知識事項の記憶・活用が十分に定着していることが示唆される。今後も、知識・技能の活用につながる学習活動を一層強化していく。	
思考・判断・表現	思考・判断・表現を問う問題では全国平均を大きく上回る正答率を示しており、本校の探究的かつ振り返りを重視した学習活動が効果的に機能していると考えられる。特に、知識・技能を関連付けて推測したり、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連に着目した振り返りを適切に表現できている。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	生徒の視点を取り入れた授業改善を進めるため、学校運営協議会に生徒が参加している。隔週で実施している全体教科会では、各教科における授業改善の実践を共有するとともに、教科ごとの研究計画やその進捗状況については、教科主任会などを通じて相互に確認できている。	変更なし
思考・判断・表現	B	校内研究と連携し、担当教科内外で授業観察を実施している。また、生徒を交えた校内研修については、学期ごとの学習アンケートとフォーカスグループを基盤とした研修の計画を進めている。これにより、生徒の声をデータと実感の両面から取り入れ、指導改善につなげている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)